つなぐ
複合専門商社グループ

ユアサ商事株式会社
YUASA

つなぐ

YUASA REPORT

第 142 期　2020.4.1-2021.3.31

証券コード：8074

社長メッセージ

ユアサ商事グループの真のトランスフォーメーションに向けて

代表取締役社長
田村 博之

2021年3月期　経営成績

売上高	4,321億85百万円	前期比 12.0%減
営業利益	89億83百万円	前期比 24.3%減
経常利益	100億11百万円	前期比 21.8%減
親会社株主に帰属する当期純利益	69億30百万円	前期比 22.6%減

株主の皆さまには平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当社グループは、2020年4月に「ユアサビジョン360」の2ndステージとして、2023年3月期を最終年度とする中期経営計画「Growing Together 2023」を策定し、「つなぐ複合専門商社グループ」のキャッチフレーズのもと、成長事業戦略、コア事業戦略の実行と経営基盤の強化を推進いたしました。

Growing Together 2023の推進

成長事業戦略については、社会課題の解決=成長事業と捉え、SDGsで掲げる目標達成に向け、気候変動や感染防止、省人化といった社会課題の解決のため新しい商品・サービスの開発に注力いたしました。▶▶P3参照

また、ニューノーマル時代の新たな営業プロモーション施策として、リアルとバーチャルの融合をテーマにした新たな展示会「YUASA Growingフェア」を関東と関西で開催いたしました。▶▶P4参照

コア事業戦略については、ワンストップで総合力を発揮できる商社グループへの進化を目指し、2021年3月期においては、新たに4社の子会社化と3社への事業投資を実施いたしました。▶▶P7～P8参照

経営基盤の強化については、DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進に向け、関連会社の株式会社シーエーシーナレッジ（現ユアサシステムソリューションズ株式会社）の子会社化を実施し、DX推進体制の強化をはかりました。私を含む経営陣が先頭に立ち、データやIT技術を活用した競争優位性の確立を目指してまいります。▶▶P9参照

今期は脱炭素社会に向けたカーボンニュートラルへの取り組みにも注力してまいります。当社グループはいち早く環境・エネルギー事業に注力してまいりましたが、日本政府が目指す2050年までの温室効果ガス排出ゼロ達成のためには、これまでとは別次元の取り組みに移行させていく必要がございます。「事業面」と自社の「活動面」の両面から、今までの延長線上ではない新たなカーボンニュートラル施策を実行してまいります。▶▶P10参照

DXやカーボンニュートラルの推進にあたり、重要なのは「モノ売り」から「コト売り」への提案力を磨き、当社グループのビジネス自体を変革（トランスフォーメーション）することです。ニューノーマル時代の新たな価値創造に向け、グループ一丸となり真のトランスフォーメーションを目指してまいります。

配当について

2021年3月期の期末配当におきましては、当初の予定通り70円とし、年間配当金を1株当たり100円とさせていただきました。2022年3月期におきましては、年間配当金123円を予定しております。

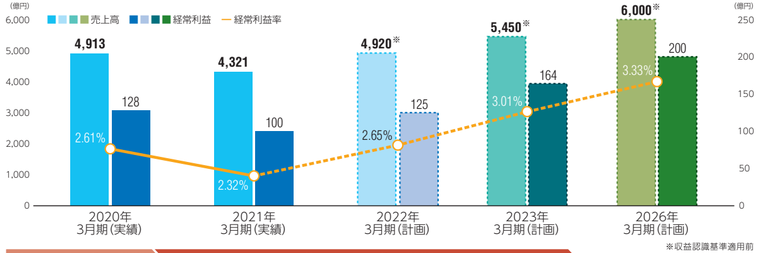
株主の皆さまにおかれましては、何卒相変わりませぬご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

長期ビジョンと中期経営計画

「ユアサビジョン360」2026年（創業360周年）のビジョン

業界トップレベルの収益構造を持つ『つなぐ 複合専門商社グループ』への成長を目指します。

中期経営計画「Growing Together 2023」3つの戦略　成長事業戦略 P5　コア事業戦略 P7　経営基盤の強化 P9

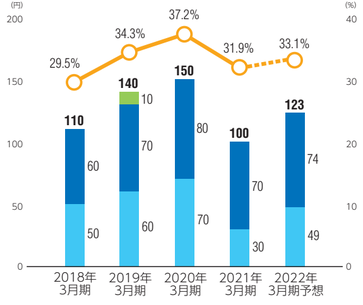


Growing Together 2020　Growing Together 2023
1st 2018–2020年　2nd 2021–2023年　3rd 2024–2026年
ユアサビジョン360

定量目標（連結）

	2023年3月期計画	2026年3月期計画
売上高	5,450億円	6,000億円
営業利益	154億円	—
営業利益率	2.8%	—
経常利益	164億円	200億円
当期純利益	115億円	—
ROE	11.4%以上	11.7%
株主還元率	33.0%以上	33.0%以上

1株当たり配当金と株主還元率の推移

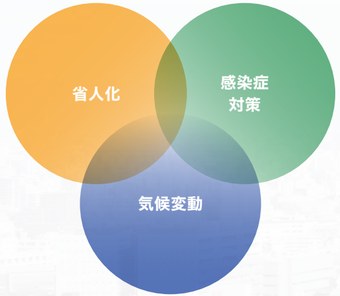


特集

ユアサ商事グループの未来へ つなぐ 価値創造の取り組み

ユアサ商事グループは、社会課題の解決＝成長事業と捉え、気候変動や感染防止、省人化対策といった社会課題の解決のための新しい商品・サービスの開発に注力しております。

社会課題



省人化　感染症対策　ユアサ商事株式会社

除菌サニテーションロボット「エレファンター」

「エレファンター」は、感染症対策や除菌ニーズの高まりを受け、広い施設などでの除菌作業を自動化できるロボットとして開発いたしました。協働運搬ロボット「サウザー」の重量物の運搬機能を活用することで、運搬と除菌の1台2役を担う点が特徴的です。

- **自動追従**　レーザーセンサーで追従対象を認識し、一定の距離を保つように追従します。
- **無人ライン走行**　現場で簡単に敷設できる反射テープを認識し、ライン上を無人で走行します。
- **簡単操作**　マニュアルいらずの簡単操作で、すぐに現場で活躍します。
- **安心設計**　広視野センサーで障害物を検知し、賢く衝突を回避します。万が一障害物に衝突しても、バンパーで検知し、その場で自動停止します。

感染症対策　富士クオリティハウス株式会社

感染低減ハウス

2020年3月に当社グループに加入した富士クオリティハウス株式会社とともに、当社グループのオリジナル製品として、簡易診察室や感染外来受付として利用できるコンテナハウス「感染低減ハウス」を開発し、販売しております。耐久性の高さと高い品質を活かした、コロナ禍における感染症対策ニーズに対応する製品です。

感染低減ハウス室内

感染低減ハウス排気装置

感染低減ハウス外観

省人化　気候変動　ユアサ商事株式会社／株式会社サンポール／応用地質株式会社

冠水センサ付きボラード「キヅキミライ KIZUKIMIRAI」

「キヅキミライ」は、年々頻発化・激甚化している内水氾濫を、身近にある車止めで課題解決することを目指し、仕入先メーカー様とともに立ち上げた『ミライノベーション・プロジェクト』の一環として開発いたしました。冠水センサの実装により、内水氾濫を検知することで、モニタリングや初動対応のリードタイムの確保につなげることを目的としています。

[システム概要と特徴]

①親機（冠水センサ付きボラード）が冠水を検知し、子機に情報通知

②子機(無線警告灯)が情報を受信し、警告灯を発光

③通行車両は、警告灯を目視確認。事前に危険を察知し、危険を回避

Yuasa's efforts to create new value

YUASA Growing フェア（関東・関西）を開催

当社は、2020年11月に幕張メッセ（千葉県）、2021年3月にインテックス大阪の2カ所において「YUASA Growing フェア（関東・関西）」を開催いたしました。万全の感染症対策を施したうえで、リアル（実機展示）、バーチャル、ライブ配信などニューノーマル時代を見据えた展示とし、両会場合わせ5,700名を超えるお客様にご来場いただきました。

ご来場者数　関東 3,165名　関西 2,611名

VR（バーチャルリアリティ）と実機（商品）の展示

会場内パソコンのバーチャル展示場を通じた商品紹介に加え、実機（商品）展示を併設することにより、来場者がバーチャルで興味を持った商品をその場で確認できるようにいたしました。

VRと実機（商品）の併設展示

共通VRブース

REAL（リアル）テーマゾーンでのAI技術展示

会場中央のテーマゾーンでは、AIベンチャーconnectome.design株式会社によるAI技術展示を中心に、ユアサ商事グループのオリジナル商品・システムを多数展示いたしました。

クーラント設備&マシニングセンタのコーディネートシステム

骨格推定技術によるゴルフスイング鑑定

ライブ配信

展示会場では困難な「音」や「振動」等を伴う実演を行い、会場との双方向でのコミュニケーションを実現いたしました。ライブ配信は今年の「グランドフェア2021」でも継続する予定です。

出展者メーカー工場からのライブ配信の様子

来場者アンケートでは約9割の方が「展示会の内容」「感染症対策」ともに満足とお答えいただきました。YUASA Growingフェアでいただきました来場者様からのご意見を集約し、今秋からの「グランドフェア2021」に反映させてまいります。

成長事業戦略

海外事業

投資枠40億円　関連するSDGs

北米地区、南アジア地区、東アジア地区に対し、当社グループの経営資源を集中投下します。

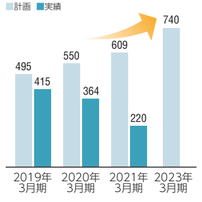
Growing Together2023 進捗

- 工業　現地セールススタッフの育成と現地資本企業への販売拡大（販売比率50%を目標）
- 住環境　タイ・ベトナムにおける省エネ・創エネ商材拡販
- 建設　【建材】海外建材事業の強化（輸入・輸出）
  【建機】中古建設機械・農機の輸出拡大

中国の展示会で現地スタッフがクーラント装置を紹介している様子

取扱高　（単位：億円）

220億円（2021年3月期実績）▼ 740億円（2023年3月期計画）



ロボ(AI)＆IoT事業

投資枠40億円　関連するSDGs

最先端のAI／IoT・ロボット技術の提案を通じ、取引先ネットワーク全体の成長を目指します。

投資対象　AIベンチャー企業・SIerとのアライアンス
SIer機能強化のための投資

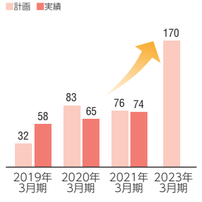
Growing Together2023 進捗

- 工業　駅や商業施設への協働ロボット導入
- 住環境　Society5.0に対応した機器の開発・提案
- 建設　公共エクステリア関連IoT商材の開発・提案

物流倉庫用のピッキングアシストロボットで自動化を提案（Rapyuta Robotics製）

売上高　（単位：億円）

74億円（2021年3月期実績）▼ 170億円（2023年3月期計画）



環境・エネルギーソリューション事業

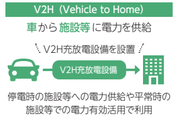
関連するSDGs

エネルギーの効率的活用やレジリエントなライフラインの確保に向け再生可能エネルギーを活用した「分散型エネルギー社会の実現」を目指します。

Growing Together2023 進捗

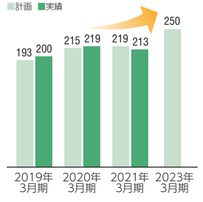
- 家庭用から産業用までニーズや用途にあった蓄電池ラインナップ
- 部門を横断した環境インストラクターの継続的育成
- 太陽光発電・蓄電池・V2Hを組み合わせたソリューション提案
- O&Mを絡めた循環型ビジネスの推進
- 所有モデルからエネルギーサービス契約モデルへの対応（PPAモデル確立）

展示会を活用した蓄電池提案



売上高　（単位：億円）

213億円（2021年3月期実績）▼ 250億円（2023年3月期計画）



新流通事業

関連するSDGs

販売先様との電子商取引（Growing Navi）事業を拡大します。

Growing Together2023 進捗

- Growing Navi 発注金額の拡大（2021年実績50億円→2023年計画100億円）
- 販売先様とユーザー様を結ぶB to B to Uプラットフォームの展開
- 新流通ビジネス部によるワンストップでの商品提供の推進

感染症対策商品のPRに注力しています。

Growing Navi B to B to U 展開イメージ

売上高　（単位：億円）

138億円（2021年3月期実績）▼ 190億円（2023年3月期計画）

レジリエンス＆セキュリティ事業

関連するSDGs

「防災・減災・BCP」をキーワードに、安心・安全な社会インフラの形成を推進します。

Growing Together2023 進捗

- コンクリート組立塀改修アルミ目隠しフェンス「八千塀®」を開発～震災時の倒壊被害を防止し、レジリエントなまちづくりに貢献～
- ミライノベーション・プロジェクトによる社会インフラ関連商材の開発・提案（冠水センサ付きポラード・防災電源倉庫他）

八千塀®の特徴

- 軽量のアルミパネルで地震での倒壊被害を軽減（約85%の軽量化）
- 既存の支柱を流用することで、
  ①改修コスト削減（約35%コスト削減）
  ②工期の短縮
  ③産業廃棄物の排出を抑制し環境に配慮
- 柱カバー、笠木でデザイン性が向上

売上高　（単位：億円）

283億円（2021年3月期実績）▼ 300億円（2023年3月期計画）

農業事業

Growing Together2023 進捗

- 株式会社DONKEYとスマート農業対応のロボットの開発・提案
- UV-B(紫外線)でイチゴの免疫力を活性化する蛍光灯の提案

19億円（2021年3月期実績）▶ 50億円（2023年3月期計画）

UV-B電球形蛍光灯

介護・医療事業

Growing Together2023 進捗

- 補助金を活用した介護・医療施設向け感染症対策の推進
- コンテナハウスを利用した感染低減ハウスの提案

68億円（2021年3月期実績）▶ 80億円（2023年3月期計画）

感染低減ハウス

チャレンジ分野

食品事業

Growing Together2023 進捗

- Yuasa Growing フェアにて「食品ライン」を展示
- 異物混入を防止する検査装置の提案（食の安全性確保）

27億円（2021年3月期実績）▶ 80億円（2023年3月期計画）

Yuasa Growingフェアで展示した食品ライン

シェアリング事業

Growing Together2023 進捗

- 農機シェアリングサービスの推進
- 工場設備、産業機器、ロボット、サービス・メンテナンス分野におけるシェアリングモデルの開発

15億円（2021年3月期実績）▶ 50億円（2023年3月期計画）

農機シェアリングによる刈り取り

コア事業戦略

新規グループ会社紹介

ワンストップでの総合力発揮に向けM&Aを推進

コア事業において必要な機能を補強し、ワンストップで総合力を発揮できる「つなぐ複合専門商社グループ」への進化を目指し、M&Aや業務提携を推進しております。

2021年3月期においては、新たに4社の子会社化と3社への事業投資を実施いたしました。

また、2021年4月にユアサテクノ株式会社とユアサプロマテック株式会社を合併し、ユアサネオテック株式会社を発足させるなど、グループ経営の効率化にも取り組んでおります。

新たに子会社化・事業投資・合併を行った会社

グループ会社名	形態	時期
connectome.design株式会社	事業投資	2020年5月
株式会社DONKEY	事業投資	2020年5月
株式会社丸建サービス	子会社化	2020年10月
丸建商事株式会社	子会社化	2020年10月
中川金属株式会社	子会社化	2020年12月
永井産業株式会社	子会社化	2020年12月
ユアサシステムソリューションズ株式会社 (旧株式会社シーエーシーナレッジ)	事業投資	2021年2月
ユアサネオテック株式会社	合 併	2021年4月

グループ会社数 (2021年4月1日現在)

42社（国内27社、海外15社）

モノづくり分野の深耕

子会社化

中川金属株式会社

名称　中川金属株式会社
本社所在地　東京都千代田区神田須田町1丁目32番地
設立年月日　1949年4月11日
事業内容　切削工具を主力とする機械工具、機器類の卸売
資本金　50百万円
株主　ユアサ商事株式会社（100%）
人員　72名（2021年4月1日現在）

永井産業株式会社

名称　永井産業株式会社
本社所在地　千葉県市原市五井金杉1丁目36番地
設立年月日　2003年4月1日
事業内容　産業機器類全般の販売
資本金　10百万円
株主　ユアサ商事株式会社（100%）
人員　22名（2021年4月1日現在）

中川金属株式会社は、創業85年の業歴を有する業界有数の切削工具専門商社です。従来から大手製造業及びそのグループ企業に対する営業基盤を有しており、本社以外に全国11カ所に営業拠点がございます。永井産業株式会社は、京葉工業地帯及び千葉県・茨城県の製造業向けに機械工具の販売を行っております。

営業拠点

強み・目的

- 大手メーカー及びグループ企業への直接販売を軸とした営業基盤
- 京葉工業地帯及び千葉県・茨城県の製造業者を対象とした機械工具の販売
- 切削工具販売の強化をはじめ、取扱商材の拡充による事業領域の拡大

合併

ユアサネオテック株式会社

名称　ユアサネオテック株式会社
本社所在地　東京都千代田区神田美土代町9番地1
設立年月日　2021年4月1日
事業内容　機械・機器及び要素部品等の関連部材、環境・省エネ商品、水処理関連商品、OEM部材等の販売
資本金　301百万円
株主　ユアサ商事株式会社（100%）
人員　164名（2021年4月1日現在）

当社の連結子会社であるユアサテクノ株式会社とユアサプロマテック株式会社が合併し、2021年4月よりユアサネオテック株式会社としてスタートいたしました。ネオとは「新しい」を意味し、テックとは「技術」を意味します。「新しい技術」を通じて、世界のモノづくりに貢献してまいります。

強み・目的

- グループ事業運営の合理化・効率化
- 共通の営業基盤の活用による事業拡大

DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進

事業投資

ユアサシステムソリューションズ株式会社

名称　ユアサシステムソリューションズ株式会社
本社所在地　東京都中央区日本橋箱崎町24番1号 日本橋箱崎ビル7階
設立年月日　1989年4月1日
事業内容　業務系システムの開発、コンサルティング、運用・保守、ソフトウェア・ハードウェア提案、ネットワーク構築
資本金　50百万円
株主　ユアサ商事株式会社（51.0%）、株式会社シーエーシー（49.0%）
人員　75名（2021年4月1日現在）

当社グループのDX（デジタルトランスフォーメーション）の推進を目的に、業務系システムの開発、保守、運用を手掛ける株式会社シーエーシーナレッジの連結子会社化を行いました。（2021年4月1日にユアサシステムソリューションズ株式会社に名称変更）

強み・目的

- 情報システムの企画・提案、開発、運用、保守までのワンストップサービス
- 当社グループのDXの推進とIT関連事業の強化

建設分野の機能強化

子会社化

株式会社丸建サービス／丸建商事株式会社

愛知県を中心に展開する建機メンテナンス&レンタル会社

当社グループの建設分野の機能強化を目的に、株式会社丸建サービスならびに同社の100%子会社である丸建商事株式会社の連結子会社化を行いました。

丸建商事㈱が日本のレンタル会社として唯一保有している住友建機製アスファルトフィニッシャ HA90C

強み・目的

- 建機の修理・メンテナンスノウハウとレンタル機のラインナップ
- メンテナンス&レンタル機能装備による建機部門の事業領域拡大

connectome.design株式会社

事業投資

ディープラーニング技術に強みを持つAIベンチャー

強み・目的

- モノづくり分野におけるディープラーニング技術
- 複数企業による「業界内で使えるAI」の開発（AIギルド）

株式会社DONKEY

事業投資

小型多機能ロボットとデータ活用サービスの開発

強み・目的

- 小型多機能ロボットの開発とデータ活用サービス
- 量産化に向けた生産支援とマーケティング支援

経営基盤の強化

ITデジタル投資枠		ITデジタル投資枠		ITデジタル投資枠
40億円	＋	80億円	＝	120億円
2ndステージ		3rdステージ		2020年～2026年

DX推進により「コト売り」のデジタル商社へ

当社が持つ歴史や経験を可能な限りデータ化し、現在の仕入先様や販売先様のネットワークからの情報と一般市場のデータを集約し、AIにより分析することで、新たなサービスや当社独自の課題解決商品開発に結び付け、「モノ売り」から「コト売り」への変革を実現していきます。
経営陣が先頭に立ち、データやIT技術を活用した他社にはない競争優位性の確立を目指してまいります。

データを起点にしたビジネスを推進

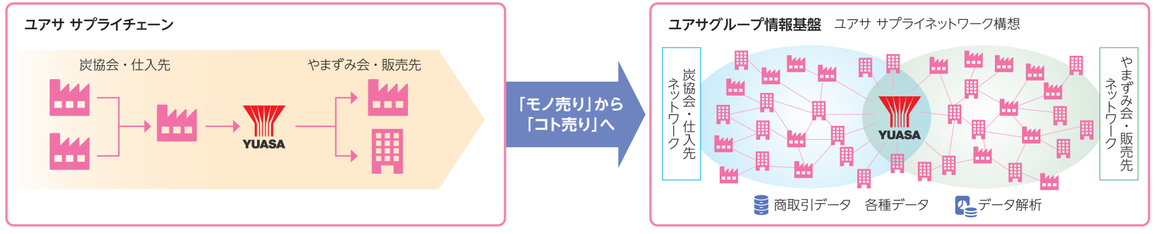
2022年度以降は攻めのDX、守りのDXそれぞれで個別施策を推進し、2026年までにグループ・グローバル共通のIT基盤を確立を目指します。
データを蓄積活用することで「データを起点にしたビジネス」を展開します。

●次期ITデジタル戦略の推進状況

2022年度以降	個別施策の推進	・守りのDX：基幹システムの刷新 ・攻めのDX：新規事業の創出 → サプライネットワークの要へ
2021年度	DX推進計画の企画	・DX推進組織の編成 ・守りと攻めのDX推進計画の企画
2020年度	推進構想の策定	・有識者会議の創設 ・DX推進プロジェクト 事務局立上げ ・事業課題等の現状調査

目指す姿

取引先様とのサプライネットワークを基盤に、日々の商取引データをAIが分析、活用することでデータを起点としたソリューション営業を展開します。



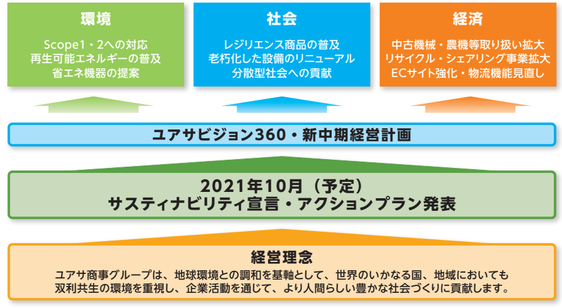
ESGへの取り組み

持続可能な成長の実現を目指し、ESGを意識した事業展開と経営基盤の構築を推進してまいります。

ESGマネジメント

E 環境

当社グループは、350年以上受け継がれてきたサステナビリティ経営をさらに進化させるため、企業理念に基づいた「サステナビリティ宣言」を策定し、カーボンニュートラルに向けた挑戦や情報開示の拡充に努めてまいります。



伐採によって劣化したマングローブ林の再生に取組みます。

S 社会

気候変動や感染防止といった社会課題の解決のため新しい商品・サービスを開発してまいります。

第7回ジャパン・レジリエンス・アワード（強靭化大賞）受賞一覧

No.	賞名	受賞会社名	受賞内容
1	最優秀賞「STOP 感染症大賞」	ユアサ商事（株）	除菌サニテーションロボット エレファンター
2	最優秀賞「STOP 感染症大賞」	富士クオリティハウス（株）	感染低減ハウス（新型コロナウイルス対策コンテナハウス）
3	優秀賞	ユアサ商事（株）、（株）サンポール、応用地質（株）	冠水センサ付きポラード「キヅキミライ KIZUKI MIRAI」
4	優秀賞「STOP 感染症大賞」	ユアサクオビス（株）（株）ダンドリワークス	全工種対応型予約管理システム「ITENE」

ジャパン・レジリエンス・アワード 2021

G ガバナンス

コーポレートガバナンスの強化のため、政策保有株式の縮減に取り組むとともに、独立社外取締役の割合を3分の1以上とします。

①政策保有株式の縮減

政策保有株式の縮減基準（グループ会社共通）

●保有限度基準
純資産基準 …… 保有株式総額が保有会社の純資産の一定割合を超える場合、縮減
収益基準 …… 保有株式総額が保有会社の利益の一定割合を超える場合、縮減
●継続保有基準 … 各銘柄の時価に対する収益性が一定割合を下回る場合、縮減

2021年3月期の売却実績（グループ会社含む）
14銘柄、605千株

②社外取締役の割合を3分の1以上へ ※2021年6月24日以降

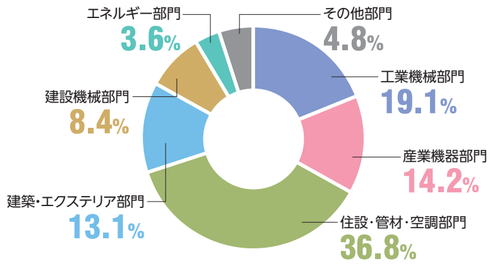
取締役会の構成（独立社外取締役の割合）

常勤取締役	独立社外取締役	独立社外取締役の割合
5	3	37.5%

セグメント別の概況

●セグメント別売上高構成比

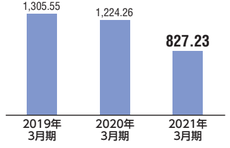
2021年3月期
売上高 4,321億85百万円



工業機械部門

売上高 827億23百万円
前期比 32.4%減

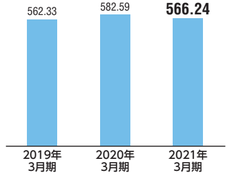
国内では、全般的に設備投資に慎重な動きがみられ、堅調に推移していた自動車関連産業も半導体の供給不足による生産遅延の影響により関連設備の販売が減少。海外では、新型コロナウイルス感染症拡大の影響から新規設備投資の回復が遅れる中、現地資本企業への営業活動を強化し受注拡大に注力。



建築・エクステリア部門

売上高 566億24百万円
前期比 2.8%減

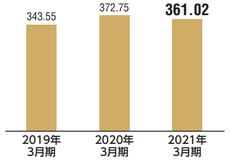
首都圏を中心に工事の遅延や、再開発事業の見直しにより景観エクステリア商材を中心に新規需要が減少。一方、国土強靭化基本計画に沿った、自然災害対策や交通事故防止対策などの公共設備投資が底堅く推移。ライフスタイルの変化により、物置や宅配ボックスの販売が増加。



建設機械部門

売上高 361億2百万円
前期比 3.1%減

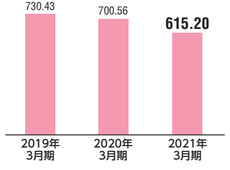
建設技能者不足などによる工事の遅延や民間設備投資の見直しの影響など一部で需要が低迷したものの、インフラ整備、災害復旧、防災・減災工事など公共工事は堅調に推移。レンタル会社の建設機械需要や土木系商材の需要も底堅く推移。



産業機器部門

売上高 615億20百万円
前期比 12.2%減

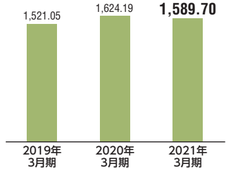
新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、工場稼働率が低下したものの、5Gを中心に半導体関連の需要が拡大、また自動車関連産業も生産が持ち直し、切削工具、測定器具、制御機器などの需要が緩やかに回復。食品関連産業も底堅さを維持し、物流関連機器などの需要が堅調に推移。



住設・管材・空調部門

売上高 1,589億70百万円
前期比 2.1%減

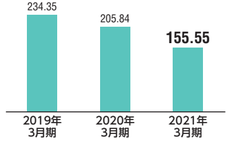
企業の設備投資の再開による空調・管材機器の新規需要や、テレワークによる在宅時間の増加により住宅リフォーム市場などが持ち直し、住宅設備機器の更新需要が回復。再生可能エネルギー分野では、自家消費向け及びFIT（固定価格買取制度）期間満了後を見据えた蓄電池関連機器の需要が堅調に推移。



エネルギー部門

売上高 155億55百万円
前期比 24.4%減

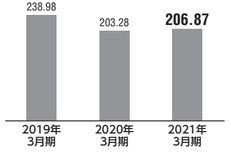
新型コロナウイルス感染症拡大の影響によりガソリンなどの石油製品需要や販売価格は低迷したものの、期末に向け、緩やかに回復。



その他部門

売上高 206億87百万円
前期比 1.8%増

消費財事業では、在宅時間の増加により加湿器などの生活家電が順調に推移。新商品の拡販などECサイト事業の拡大にも注力。木材事業では、生産国における感染症拡大による輸入量減少、米国・中国の需要拡大による価格上昇や、コンテナ不足による輸送費の高騰・入荷遅れなどにより、低調に推移。



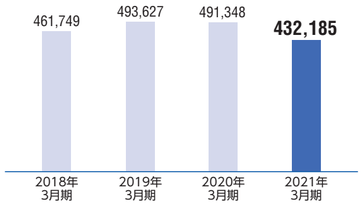
財務ハイライト

2021年3月期のポイント

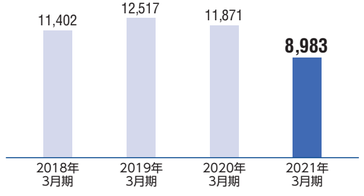
売上高　一部の製造業を中心に経済活動の緩やかな回復がみられたものの、新型コロナウイルス感染症の再拡大にともない景気の先行きに不透明な状況が続き、厳しい事業環境にて推移いたしました。工業分野では、設備投資意欲は依然として慎重さがみられ、建設・住宅分野では、新設住宅着工戸数の減少が継続しましたが、公共設備投資をはじめ住宅リフォームや管材・空調分野は堅調に推移しました。一方で、海外においては、米国・中国などで景気の回復が進み、アジアにおいても設備投資需要は緩やかな持ち直しに向かいました。この結果、売上高は、前年比**12.0%減**の**4,321億85百万円**となりました。

配当金　期末配当金につきましては**1株当たり70円**とし、中間配当金と合わせて**年間100円（株主還元率31.9%）**とさせていただきました。

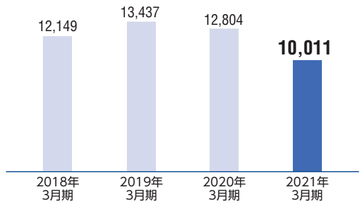
売上高 (百万円)



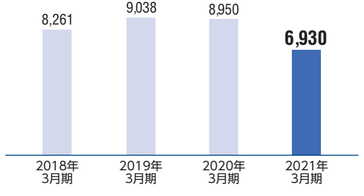
営業利益 (百万円)



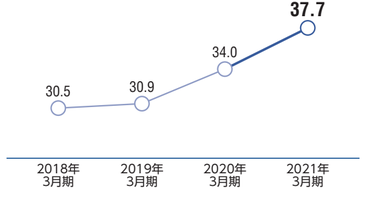
経常利益 (百万円)



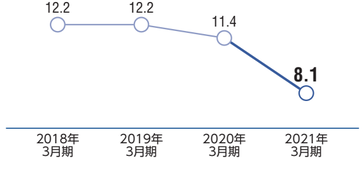
親会社株主に帰属する当期純利益 (百万円)



自己資本比率 (%)



ROE（自己資本当期純利益率） (%)



会社概要／株式情報

会社概要

商　　号	ユアサ商事株式会社 YUASA TRADING CO., LTD.
本　　社	東京都千代田区神田美土代町7番地
創　　業	1666年（寛文6年）3月
設　　立	1919年（大正8年）6月25日
資 本 金	20,644百万円
従業員数	2,487名（連結）1,079名（単体）

取締役及び監査役 (2021年6月24日現在)

名前	役職	管掌
田村　博之	代表取締役社長	兼 海外事業推進担当
佐野木晴生	代表取締役専務 経営管理部門統括	兼 地域・グループ担当 兼 輸出管理委員会委員長 兼 倫理・コンプライアンス委員会委員長 兼 内部統制委員会委員長
田中　謙一	専務取締役 営業部門統括 住環境マーケット事業本部長	兼 ユアサプライムス㈱代表取締役会長
高知尾敏之	常務取締役 工業マーケット事業本部長	兼 ㈱国興取締役会長
中山　直美	取締役 建設マーケット事業本部長	
前田　新造	取締役（社外）	
戸谷　圭子	取締役（社外）	
木村　恭介	取締役（社外）	
水町　一実	監査役（常勤）	
古本　好之	監査役（常勤）	
鶴田　進	監査役（社外）	
本田　光宏	監査役（社外）	

（注）社外取締役を除く取締役は執行役員を兼務しております。

国内ネットワーク (2021年4月1日現在)

国内拠点

31拠点（8支社、12支店、11営業所）

主な国内グループ会社

産業機器	株式会社国興
	中川金属株式会社
	永井産業株式会社
工業機械	ユアサネオテック株式会社
住設・管材・空調	ユアサクオビス株式会社
	友工商事株式会社
	浦安工業株式会社
	株式会社マルボシ
	株式会社サンエイ
	株式会社高千穂
	フシマン商事株式会社
建築・エクステリア	東洋産業株式会社
建設機械	ユアサマクロス株式会社
	富士クオリティハウス株式会社
	株式会社丸建サービス
	丸建商事株式会社
エネルギー	ユアサ燃料株式会社
その他	ユアサプライムス株式会社
	ユアサ木材株式会社

海外ネットワーク

主な海外グループ会社

湯浅商事（上海）有限公司	中国
YUASA TRADING（TAIWAN）CO.,LTD.	台湾
YUASA TRADING（THAILAND）CO.,LTD.	タイ
YUASA ENGINEERING SOLUTION（THAILAND）CO.,LTD.	タイ
PT. YUASA SHOJI INDONESIA	インドネシア
YUASA MECHATRONICS（M）SDN. BHD.	マレーシア
YUASA TRADING（PHILIPPINES）INC.	フィリピン
YUASA TRADING VIETNAM CO.,LTD.	ベトナム
YUASA TRADING INDIA PRIVATE LIMITED	インド
YUASA-YI, INC.	米国
YUASA SHOJI MEXICO, S.A. DE C.V.	メキシコ

株式の状況

発行可能株式総数……40,000,000株
発行済株式総数……23,155,882株
（自己株式868,978株を含む）
株主数……7,676名
※単元株式数は100株であります。

大株主 (上位10名)

株主名	持株数（千株）	持株比率（%）
株式会社日本カストディ銀行	2,341	10.50
日本マスタートラスト信託銀行株式会社	1,651	7.41
STATE STREET BANK AND TRUST CLIENT OMNIBUS ACCOUNT OM02 505002	911	4.08
ユアサ炭協持株会	822	3.68
BBH FOR FIDELITY PURITAN TR: FIDELITY SR INTRINSIC OPPORTUNITIES FUND	675	3.02
西部ユアサやまずみ持株会	632	2.83
株式会社三井住友銀行	594	2.66
東部ユアサやまずみ持株会	587	2.63
ユアサ商事社員持株会	483	2.16
ダイキン工業株式会社	452	2.02

1. 千株未満は切り捨てて表示しております。
2. 持株比率については、自己株式を控除して算出し小数点第3位以下は切り捨てて表示しております。
3. 当社は自己株式868千株を保有しておりますが、上記の大株主から除いております。なお、自己株式には、役員報酬BIP信託が保有する当社株式（196千株）は含まれておりません。
4. 上記信託銀行持株数のうち、当該信託銀行の信託業務に係る株式数は、次のとおりであります。
   株式会社日本カストディ銀行　2,341千株
   日本マスタートラスト信託銀行株式会社　1,651千株

株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
期末配当金受領株主確定日	3月31日
中間配当金受領株主確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社　証券代行部 東京都府中市日鋼町1－1 電話　0120－232－711（通話料無料）
郵送先	〒137－8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社　証券代行部
上場証券取引所	東京証券取引所　市場第一部
公告の方法	電子公告により行う 公告掲載URL https://www.yuasa.co.jp/ir/index.html （ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。）

ご注意

(1) 株主さまの住所変更、単元未満株式の買取請求・買増請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。

(2) 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問い合わせください。

ESG/SDGsへの取り組み

JR高輪ゲートウェイ駅で活躍する協働運搬ロボット「サウザーベーシック」

ＪＲ高輪ゲートウェイ駅では、当社が株式会社Ｄｏｏｇ様とともに提供した協働運搬ロボット「サウザーベーシック」が活躍しています。

人に代わって重い荷物を自律移動又は自動追従で目的地まで運ぶ作業を行っており、駅や商業施設への将来的な導入に向けた検証を行っています。

当社はロボ（AI）&IoT事業の強化を通じ、SDGsで掲げる新しい産業基盤の確立と人間中心の社会形成を目指しており、本実証試験を通じ人間とロボットとの協働モデルの形成に貢献してまいります。

新幹線「はやぶさ」のデザインをモチーフにしたサウザー（提供：JR東日本）

高輪ゲートウェイ駅では様々なロボットが活躍しています（提供：JR東日本）

動画配信のご案内

当社ホームページにて、中期経営計画「Growing Together 2023」に関する説明動画を公開しておりますので、是非ご覧ください。

https://www.yuasa.co.jp/ir/index.html

ユアサ商事株式会社

Growing Together ともに挑む。

ミックス 責任ある木質資源を使用した紙 FSC® C022915

ISO14001:2015 認証取得

この報告書は植物油インキを使用して印刷しています。